

## 路線バス（乗合バス）の上限運賃改定の申請について

国際十王交通株式会社（本社：埼玉県熊谷市、社長：小野里一彦）では、2023年3月17日に、国土交通省へ乗合バス運賃の上限運賃変更認可申請を行いました。

申請理由および申請概要等は次のとおりです。

お客様にはご負担をおかけいたしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

### 1.申請理由

弊社は2001（平成13）年4月、東武鉄道(株)熊谷営業所（埼玉県熊谷市）が所管する乗合（路線バス）事業を肩代わりして以後22年間、消費税増加分の転嫁を除いては運賃改定することなく、お客様に安全・安心な輸送の提供を最優先に、より快適にご利用し易いバスの運行の維持を図って参りました。

この間マイカー利用の浸透や少子高齢化等の社会構造の変化に加え、昨今の新型コロナ感染拡大の影響による生活様式の変化等により、乗合バスを取巻く環境は極めて厳しいものとなり、苦しい経営を余儀なくされております。

しかしながら厳しい事業環境においても、公共交通としてお客様にバスを安全に安心してご利用いただけるよう、今後も安定的に事業継続していく必要があると考え、今般上限運賃の変更の認可申請をいたしました。

今後も、引き続き経営努力をまいりますので、何卒ご理解をお願いいたします。

なお、消費税率の改訂に伴う運賃変更を2014、2019年に、また一部区間における上限認可運賃の範囲内での実施運賃変更を昨（2022）年2月に実施いたしております。

### 2.申請概要

- (1) 申請日 2023年3月17日（金）  
(2) 運賃改定実施予定日 2023年8月中（認可後決定）  
(3) 申請対象路線 弊社路線バス全路線  
（羽田空港線高速バス、熊谷市コミュニティバスを除く）  
(4) 上限運賃の平均改定率 26.47%（実施運賃に関しては、上限運賃より低い10%程度のアップを予定しております）

#### (5) 現行・申請運賃比較表

	現行運賃		申請上限運賃※1		実施運賃（予定）※2	
	現金	ICカード	現金	ICカード	現金	ICカード
初乗り運賃	180円	178円	220円	220円	200円	200円
同 定期券 （通勤一か月）	8,100円		9,900円		9,000円	

※1 申請（上限）運賃は、事業の経営に必要な原価に応じて算出される、バス事業者が収受してもよいとされる運賃の上限額です。

※2 実施運賃は、認可が得られた上限運賃の範囲内で実施する、実際にお客様から収受する運賃額です。

#### (6) 主要区間の運賃

区間	片道運賃				定期券（通勤一ヶ月）	
	現行運賃		実施運賃（予定）		現行	実施予定
	現金	IC	現金	IC		
熊谷駅～新島車庫	210	210	240	240	9,450	10,800
熊谷駅～熊谷スポーツ文化公園	220	220	250	250	9,900	11,250
東松山駅～青山	280	273	310	310	12,600	13,950

### 3.熊谷営業所管内の収支状況及び輸送人員

		輸送人員	収支状況
2021 年度（申請実績年度）		2,719 千人	△115 百万円
2023 年度（申請推定年度）※3	運賃改定前	2,978 千人	△187 百万円
	運賃改定後※4	2,875 千人	△41 百万円

※3 2022 年度は新型コロナウイルス感染症拡大による回復途中のため、記載しておりません。また、2023 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を加味しておりません。

※4 2023 年度運賃改定後の輸送人員、収支状況は申請上限運賃での推計値です。

### 4.これまでの経営合理化状況及び今後の取り組み

弊社ではこれまでも路線毎のお客様のご利用状況に合せ、時刻改正や運行回数の見直しを行う他、大型車両の投入による輸送の効率化、管理コスト削減ならびに車両の計画的な代替更新による燃費改善等様々な費用削減を行い、収支バランスの改善に努めてまいりました。

小型バスによる特殊な運行の為他の路線と車両の共通運用ができないことから車両の老朽化とお客様の減少に伴い収支効率が悪化した籠原駅南口～深谷日赤線を 2018（平成 30）年に廃止する等、費用の圧縮も図りました。

一方新規路線（2021 年度籠原駅南口～熊谷さくら運動公園線、2022 年度深谷駅南口～ふかや花園プレミアムアウトレット線）の開設に加え、くまがやドームや熊谷ラグビー場で開催されるイベント等の需要を捉えた臨時バスの運行により積極的に増収を図り、全体として運行を維持して参りました。

しかしながら勤務時間が早朝・深夜に及びかつ拘束時間や休憩時間も不規則であることから、バス運転士の人材確保が難しく恒常的な運転士不足となっています。更に政情不安や円高による部品代や燃料費の高騰に加え、最重要な安全対策や定期的な車両代替更新、各種サービス改善・環境対策等のコストも同様に増加が顕著となっており、事業収支は極めて厳しく経営を大きく圧迫しております。

#### (1) 安全対策に関する取り組み

弊社では、バス事業の根幹は「輸送の安全」であるとの考えのもと、ハード・ソフトの両面から安全性向上に取組み、今後も継続してまいります。

車両面では、ドライブレコーダーやデジタルタコグラフの設置を全車両に完了しており、バスロケーションシステムと IP 無線の搭載により運転士と営業所の運行管理者が常に双方向で情報共有できる環境を整備しています。また乗り降りし易く乗降時の事故防止にも有効なノンステップバスの導入にも積極的に取り組んでおります。

従業員の安全教育については、年間を通じて運転士・事務員の全員を対象に行なっており、特に乗務員に対しては実車を使用した訓練や年齢・経験年数に応じた丁寧な教育を実施する他、外部講師を招いた安全講習も定期的に行なっています。

上記のとおり、安全対策には終わりがないと考え引き続き積極的に取り組んでまいります。

また、健康起因の事故を防止するため、全従業員を対象として睡眠時無呼吸症候群(SAS)の検査や脳MRI 健診を定期的に行なっています。

## (2) サービス向上に関する取り組み

弊社では、バスをよりご利用し易くする方策としてノンステップバスの導入やバスロケーションシステム（バス位置情報システム）を活用したお客様への運行情報サービスを提供している他、IC 乗車券システム PASMO の導入、朝日自動車グループ共通学生フリーパス（一年定期券・半年定期券）やスクラムバス（高齢者定期券）等の高割引定期券の発売等、バスをより多くの方々にご利用し易いものと感じていただける様、サービス向上に取り組んでまいりました。またお客様がいつでもスマホで企画乗車券（昨年4月から）や通勤定期券（今年2月から）を購入できるサービスも導入いたしました。

今後も見やすい車内案内表示機や聞き易い音声合成放送装置等、更にお客様にやさしいバスを目指して、引き続きサービス改善に努めてまいります。

## (3) 将来の課題等に対する今後の取り組み

今後も上記各施策を継続・発展させながら、お客様のニーズにお応えし新しい生活様式の変化にも対応したご利用し易いダイヤ編成、IC・IT 技術を活用した新たなサービスの導入なども検討して参ります。またバス（車体）を活用した広告事業（ラッピングバス、車内広告等）等を今後も積極的に展開し、関連収入の確保にも取り組んでまいります。

カーボンニュートラル・SDG s 等環境への取組みや運転士不足の問題解決に必要な働き方改革関連の人事・厚生面の見直し等、現在迫っている社会的な問題にもバス事業者として積極的に取り組んでいく所存です。

スマートバス停の導入、将来的な EV バスや自動運転等の新技術に関する情報収集や DX（デジタルトランスフォーメーション）による業務の効率化等に関しても積極的に取り組んでまいります。

お問合せ連絡先  
国際十王交通株式会社  
（運輸部）

TEL:048-521-3560